

過去の相場急変時との比較で進める

お客様へのアドバイス & 意向確認のポイント

STEP 1 ● 塩川 治明 STEP 2 ● 上村 武雄
ファイナンシャル・プランナー

相場が大きく動いた事例に照らしてアドバイスポイントを解説します。

図表1 リーマン・ショック時の騰落率と下落率

指数他	騰落前高値		騰落後安値		下落日数	騰落率
日経平均株価	2007/2/26	18,300	2008/10/28	6,994	610	▲61.8%
NYダウ工業株価	2007/10/11	14,198	2009/3/6	6,470	512	▲54.4%
ドル円	2007/6/22	124.15	2011/10/31	75.54	1592	▲39.2%
東京金	2008/7/22	3,363	2008/10/27	2,104	97	▲37.4%
原油	2008/7/11	147.27	2009/1/15	33.2	188	▲77.5%

STEP 1

リーマン・ショック&東日本大震災時の値動きと推移について押さえよう

い わゆる我が国の「コロナショック」は、2020年1月16日・国内初の感染者確認が端緒といわれます。新型コロナウイルス感染症拡大の影響の1つは、世界的な金融マーケットの大きな下落です。年の初頭には想像もしなかった、大きな下落局面を迎えました。

例えば日経平均株価指数は、3月9日からの1週間で、5営業日では過去最大の下落幅となる▲3318円を記録しました。さらに3月19日には、年初来最安値となる終値1万6552・83円をつけました。1月末の終値が2万3205・18円であったことを踏まえると、コロナショックの大きさが理解できるでしょう。

当初は出口の見えないマーケット下落と景気後退とさえいわれたものの、国内で5月25日に緊急事態宣言が解除されると、同月下旬に至るまでに、日経平均株価指数は2万円台まで戻りました。経済活動正常化に向けた企業等の動きが徐々にみられています。が、コロナ禍は継続するものとして、引き続き公的機関・民間で様々な取組みがなされています。

リーマン・ショックでは下落局面が1年以上に

リーマン・ショックについては、リーマン・ブラザーズが破綻した08年9月15日に触れられることが多いですが、実際には、それよりも前に株式指数が天井を付けていました。そして、天井から大底をつけるまで1年以上もの期間があったのです。

まずリーマン・ショックの前、クオンツ・ショック（クオンツⅡ高度な数学・物理学により市場分析や投資を行う専門家。こうした戦略が機能せず、割安な銘柄が一段と売り込まれ、割高な銘柄が一段と買われた）で多くのヘッジファンドが損失を被りました。続く

コロナショックは投資信託の基準価額も大きく下落させ、変額保険の適用金利は引下げに至るなど、銀行等の金融機関の預かり資産にも大きな負の影響がありました。各金融機関は情報提供や問合せへの回答、その他受動的な営業に追われているでしょう。

一方で、銀行等による投資信託や生命保険の窓販は開始から20年を経て、金融機関もお客様も様々な投資経験を積み重ねてきています。中でも2008年のリーマン・ショック、2011年の東日本大震災時には今回同様、大きな値動きにさらされたのです。

リーマン・ショックの前は、リーマン・ブラザーズ破綻による市場の急降下も印象的ですが、「下落局面が1年以上の長い期間に及んだこと」だと思えます。

そして、リーマン・ブラザーズの破綻を起点とすると、指数の下落の様子は図表2のようになります。これを今回のコロナショックに当てはめてみると、図表3のようになります。

市場参加者の多くは「コロナショックはリーマン・ショックに匹敵する下落局面」と捉えています。実際、コロナショック時のVIX指数（恐怖指数）は、3月16日に82・69ポイントまで急上昇しました（VIX指数が80ポイントを超えるのはリーマン・ショック以来で、VIX指数の日の歴代最高値は08年10月の89・53ポイント）

リーマン・ショックで購入額が積み上がったケースも

コロナショックは投資信託の基準価額も大きく下落させ、変額保険の適用金利は引下げに至るなど、銀行等の金融機関の預かり資産にも大きな負の影響がありました。各金融機関は情報提供や問合せへの回答、その他受動的な営業に追われているでしょう。

一方で、銀行等による投資信託や生命保険の窓販は開始から20年を経て、金融機関もお客様も様々な投資経験を積み重ねてきています。中でも2008年のリーマン・ショック、2011年の東日本大震災時には今回同様、大きな値動きにさらされたのです。

リーマン・ショックの前は、リーマン・ブラザーズ破綻による市場の急降下も印象的ですが、「下落局面が1年以上の長い期間に及んだこと」だと思えます。

そして、リーマン・ブラザーズの破綻を起点とすると、指数の下落の様子は図表2のようになります。これを今回のコロナショックに当てはめてみると、図表3のようになります。

市場参加者の多くは「コロナショックはリーマン・ショックに匹敵する下落局面」と捉えています。実際、コロナショック時のVIX指数（恐怖指数）は、3月16日に82・69ポイントまで急上昇しました（VIX指数が80ポイントを超えるのはリーマン・ショック以来で、VIX指数の日の歴代最高値は08年10月の89・53ポイント）